

Title	SIXX社を通して考察するEMS業界における世界と日本の経営スタイルの違い
Sub Title	
Author	奥沢, 栄基(Okusawa, Eiki) 河野, 宏和(Kono, Hirokazu)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2016
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2016年度経営学 第3141号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3141">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002016-3141</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2016 年度）

論文題名

SIXX 社を通して考察する EMS 業界における世界と日本の経営スタイルの違い

主 査	河野 宏和
副 査	浅川和宏
副 査	市来寄 治
副 査	

氏 名	奥沢 栄基
-----	-------

## 論文要旨

所属ゼミ	河野広和 研究室	氏名	奥沢榮基
(論文題名)			
SIXX 社を通して考察する EMS 業界における世界と日本の経営スタイルの違い			
(内容の要旨)			
<p>近年の製造業界では、メーカーから製品の設計、資材調達、生産、物流までをトータルに請け負う EMS (Electronics Manufacturing Service 電子機器製造受託) というビジネスモデルがアメリカで拡大し、強い経済の製造面を支えている。モノを作らない電子機器メーカーとしてはデルやシスコが有名だが、大企業からベンチャー企業まで製品を自分で作らないメーカーがいまでは世界中で増え続け、メーカーにとっても、株主価値最大化の圧力と技術革新のスピードの中で生き残るためには EMS 活用が不可欠であることはもはや明白で、巨大エレクトロニクスメーカーに匹敵する規模の EMS もかねてから暗躍している。EMS は製品分野においても、カバーするサプライチェーンの範囲においても、ますます拡大一方を辿り、M&amp;A によって成長してきた世界の EMS 大手では、日本の製造業を買収する動きがかねてから水面下で進められてきたが、2016 年 4 月に行われたばかりのホンハイ社によるシャープ社買収の衝撃によって、改めてその存在は注目されている。この、本来下請けのような位置づけの EMS 業者が納入先である大手電機メーカーを部分的に買収する動きは十数年前から始まり、通常の間接業者が、少数の大手企業からの受注生産に大きく頼るビジネススタイルと似て非なる。一見発注元の意向によってビジネスが大きく傾くように見えるが、大手 EMS 業者はもはや自立した商品開発力や大手企業に引けを取らない製造力を持ち、そして何よりも大型な設備投資や、自社の事業ポートフォリオに補完する M&amp;A を積極的に行いながら、規模の経済を生かした薄利多売に徹した哲学はかなり強い競争力を持つ。しかし、一見華々しく見える EMS 業界も、こと収益性に関しては、ここ数年では衰えも見え隠れしている。黒子約に徹してきた EMS 業者には自社のブランドをなかなか打ち出せず、新商品開発力にも注力しない傾向にある。</p> <p>家電や電子部品、そしてパソコンメーカーの新製品発売時期に合わせて、大量生産体制をいかに素早くスタートさせることが極めて重要な EMS 業界では、常に大型な設備投資を先行させる必要があり、よって、長期にわたって回収せざるを得ないジレンマがある一方、ますます短いスパンで起こる技術革新による流行り廃れの波も激しく、設備投資費用回収とともに、不良在庫などのリスクとも隣り合わせる。その中で、企業規模では日本最大手かつ近年では世界でもトップテンに数えられながら、自らを EMS 業者ではなく、商社であると頑なに拘る SIXX 社にも触れ、数種類のデータベース統計データを使いながら、EMS 世界トップスリーである鴻海社、フレクトロニクス社、ジェイビル社と比較しながら、比較的の小規模ながらも、長年にわたる SIXX 社の安定経営の秘訣に迫りたい。</p>			